

「かんきょう」パンフレット

第81号 (社内環境情報紙)

2012年 12月 11日

青柳工業株式会社 環境会議 事務局

環境影響評価実施します

今年も、環境影響評価を12月に実施します。環境影響評価とは毎年、当社の事業活動の中で、最も環境に負荷を与えると思われる事柄にどのようなものか考えることです。昨年は、電気、OA用紙使用量、廃棄物車の使用が最も影響に与えていると評価し、エアキャップの回収や環境を通じた社会貢献活動が、環境に対し良い影響を与えると評価しました。その結果、新規の活動として、ペットボトルキャップの回収を新たな目標に加え、本年度の目標5項目が決定されました。昨年までの評価方法は、評価対象項目に順位付けをする方法で行いましたが、今年からは、環境負荷項目を直接選ぶ方式に変更しました。K E Sの認証を受け、登録をしてから早いもので6年が過ぎ、環境活動全体がマンネリ化しているとの意見が各委員からでています。こうした変更が、画期的なものではないと思いますが、地味な作業を根気良く続けて行きたいと思えます。

火災予防にご協力ください

水戸消防署より火災予防に関するお願いが来ています。冬は暖房器具使用頻度が増加するうえ、空気が乾燥し火災がおりやすい状況だからです。出火原因のトップは、残念ながら放火によるものが多く、戸締りは念をいれてお願いします。また、タバコの火の不始末による火災も増加しているそうで、所定場所での喫煙を徹底してください。寒さが厳しくなってきましたので暖房器具の取扱、大掃除にはコンセントのほこり等の清掃をお願いします。

環境研究所で研修に参加しました

環境研究所を見学して来ました。つくば研究学園都市の中にある、環境庁の環境研究所を訪問、研究員の方から最近の研究成果等の発表を聞きました。環境研究所では、絶滅した種のサンプル(株と言っていました)を保存して自然環境が復元しつつある場所に戻し、再生させることなどに利用しています。また、絶滅してしまった種の中には、将来的には人類にとって有益な生物もあるのではないかと推測されています。出来れば多くの種が、環境の変化等の影響を受けることなく、現状のまま生き続けられることが良いのですが、そうした生物にとって生息環境は悪化の一途をたどっています。絶滅してしまう生物も増加するのではと、研究者達は心配しています。こうした環境の変化は、人間にとっても良い傾向とはいえず、多くの生物が共存できる環境を取り戻したいものです。

1) 環境影響項目チェックリスト

項目	環境影響項目	チェック
1	エネルギー—新エネルギーの活用	○
2	水の使用	○
3	自動車の使用、運送等	○
4	紙の使用	○
5	包装—梱包材の使用	○
6	原材料等の購入、使用	○
7	化学物質の購入、保管—使用—輸送—排出	○ 該当しない
8	一般廃棄物の排出	○
9	産業廃棄物の排出	○
10	騒音—振動—悪臭の発生	○
11	製品の開発—設計—生産	○
12	製品の生産	○
13	商品の販売—管理	○
14	グリーン購入(調達)	○
15	環境保全のための仕組み—体制	○
16	環境教育—啓発活動	○
17	社会貢献	○
18	その他(該当など)	○

環境影響評価のチェックリスト



火災予防ポスター



環境研究所にて

環境コラム 「高速道路メンテナンスの必要性について」 ~土木研究所の研修より~

中央道の笹子トンネル崩落事故が起こる前でしたが、つくば研究学園都市視察時に、土木研究所にも立ち寄りました。研究員の方が、政府による”仕分け”などの影響で、予算が削減されたことを力説していました。高速道路などの大半は、高度経済成長期の1960年代~70年に造られたものが多く、既に限界が来ているとの説明が脳裏にあり、今回のトンネル事故は、そうした意味で、大変ショックを受けました。高速道路が計画される時には、周囲の状況を調査して、環境に配慮した様々な設備が設置され、地元の理解を得て着工されます。たとえば、動物達が通り抜けできるような側溝を掘ることなどを条件にしたりします。本来は、保守点検の時に、そうした付帯設備も確認されるべきなのですが、残念ながら泥や落葉にうもれて、用を足さない物もあるようです。トンネル事故で犠牲になられた方のご冥福をお祈りするとともに、一刻も早いメンテナンスの充実をお願いしたいと思います。